

システム構築のための調整力向上講座(第9回)

必要な情報を必要な人に展開すればスムーズに進行

2016.06.08

今回は、調整力を発揮する対象であるステークホルダーとの付き合い方のまとめです。第7回に、ステークホルダーと共通認識を確立し、維持するためには、

- (1) ステークホルダーをモレなく特定する
- (2) 影響のある情報をモレなく展開する
- (3) 意思決定のプロセスを共有する

の3つが必要だと述べました。ステークホルダーの特定と分析ができれば、今度は「必要な情報を、知らせるべき人と共有する」必要があります。プロジェクトリーダーと窓口の顧客とだけで決めてしまい、情報を展開しなかったり、逆に誰かれかまわず「全員に知らせておけばいいだろう」と区別なく全員に情報を配信していると、重要なステークホルダーに必要な情報が届かなくなってしまう。

それぞれのステークホルダーがプロジェクトのどの要素に、どのような影響を与えるのかを分析するのに役に立つのが、これから説明する「ステークホルダーマトリクス」です(下図)。

	プロジェクト要素														
	リソース（資源）			要件					プロセス				パフォーマンス評価		
	人	施設・設備	金	目標	仕様	スケジュール	施設・設備	品質	ソフト開発	インフラ構築	業務プロセス改善	問題解決	プロジェクト進捗	フェーズ移行判定	プロジェクトの成功
経営者			●										○		●
プロジェクトオーナー			●	●	○	○	●	●	○		○	●	●	○	●
プロジェクトリーダー		●	●	●	○		●	●	●	●	●	●	●	○	●
チームメンバー				●					●	●		○	●		
業務部門 A マネジャー	●	●			○	●		○			●	●			
業務部門 A メンバー					○	○					○				
業務部門 B マネジャー	●	●			○	●		○			●	●			
業務部門 B メンバー					○	○					○				

●意思決定プロセスに参加する ○意思決定の結果を知らせる
 鹿島出版会『プロジェクトマネジメント・ツールボックス』を参考に作成

ステークホルダーマトリクスの作成の仕方… 続きを読む